

道岳連だより

広報 NO.95
令和4年9月25日
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-haa.net/>

第34回北海道山岳連盟交流登山会

2022.8.27-28 登別大会に117人が集う

北海道山岳連盟が主催する第34回北海道山岳連盟交流登山会は、コロナ禍により二年間開催できず三年ぶりの開催となった。主管は登別山岳会で、会場の登別市カルルス温泉サンライバスキー場に117名が集結し交流を深めた。

登山コースはAコース 来馬岳カルルス温泉コース、Bコース 来馬岳オロフレ峠コース、Cコース オロフレ山、Dコース 橘湖。



カルルス温泉サンライバスキー場での開会式

***** 登別大会 ありがとうございました *****

北海道山岳連盟 会長 石井 昭彦 主管 登別山岳会 会長 河村 勝

令和4年(2022)8月27日(土)と28日(日)の2日間、登別山岳会が主管となり、登別市カルルス温泉サンライバスキー場を会場に全道から117人の登山愛好者が一同に会し、「第34回北海道山岳連盟交流登山会登別大会」を開催しました。27日(土)の開会式、懇親会に続き、28日に来馬岳2コース、オロフレ山往復登山、橘湖コースに分かれ、交流と登山を楽しみました。

令和2年と3年はコロナ禍で開催できず、3年ぶりの全道交流会でした。おかげさまで北海道山岳連盟役員や北海道山岳連盟加盟山岳団体、各会員の皆さまのご協力ですぐ事故無く、登山会を終了することができました。ありがとうございました。

来馬岳、オロフレ峠より往復 B班

スタッフ 渡邊

前日、雨の中の開会式。懇親会はコロナ感染防止のため、それぞれの会ですることになってちょっと寂しい。雨が降り続く中、久し振りに再会した仲間と夜遅くまで酒を酌み交わし話の花を咲かせていた。

朝起きると雨が上がっていた。来馬岳山頂は霧がかかり見えない。天気予報は晴れに向うようだ。簡単な朝食をとりテント前に集合。登山口のオロフレ峠に移動し出発。峠から急登して平坦な道になると雨でぬかるんでいた。カルルス山を過ぎ南峰の岩で霧が晴れて周りの景色が見えるようになる。オロフレ山、徳舜瞥山、ホロホロ山、クッタラ湖等々眺望する。アップダウンをくり返しながらい来馬岳山頂に到着。山頂からは太平洋、洞爺湖、クッタラ湖、橋湖と周りの山々を見ることが出来た。「地元には海がないので海の見える山に魅力を感じる」という会員がいた。



来馬岳(1,040m)

いつも海ばかり見ている私にとって気付かない気持ち。晴れて良かったと思う。

頂上から二手に別れ、こぶし山岳会、蘭友登高会 17名はサンライバスキー場へ。旭川山岳会、富良野山岳会、スタッフ 11名は来た道を引き返しオロフレ峠へ下山。

他の会員と交流しながらの登山、まだわからない次の交流登山会を心待ちにしている私です。

山行に参加された皆様、ありがとうございました。

行事・各委員会事業報告

道岳連盟創立 70 周年記念「山の日事業」8/11 旭岳登山会

国民の祝日「山の日」が平成 28 年に制定されて以来、北海道山岳連盟は各加盟山岳団体の協力を得て、山の日事業「ふるさとの山に登ろう」を実施し、多数の会員と市民の参加を得て山に親しんできました。

この 2 年間はコロナ禍で事業を自粛しておりましたが、3 年ぶりに行動制限のない「夏休み」を迎える状況になりました。感染対策を講じながら、少しずつ個人での山行から、事業を進めてきたなか、創立 70 周年を迎えるにあたって、少しでもみなさんと登山を安全に親しむ機会を設けようということで「山の日」の 8 月 11 日に旭岳に登る市民登山会を開催することになりました。

道岳連各加盟団体と個人会員のみなさんへのお知らせと、一般市民のみなさんには道岳連ホームページでの募集だったので、参加者が集まるか不安な思いもありましたが、個人会員のみなさんを中心に積極的な参加とお知り合いの方々へお誘いいただいて、お子さん連れのご家族の参加や親子でのご参加をいただくことができました。また、道岳連各種の事業、研修会で顔見知りのみなさんには、仲間との交流とはじめて登山を行う「お子さん」へのあたたかい声かけ、サポートをいただ

きながら楽しい時間を過ごすことができました。

当日は前日まで続いたにわか雨の悪天候から回復し、珍しく朝から夕方まで晴天の1日でした。翌日からまた低気圧による雨予報のなか、本当にお天気にも恵まれて登山ができたことにありがたく思いました。

午前10時に登山を開始し、姿見駅から姿見の池まで全員で登ってから、体力や体調に応じて3つ



のグループに分かれて、それぞれ役員と個人会員の積極的なご協力をいただきながら、無線機で連絡をとり、旭岳の頂上に立った方々、無理のないところで「頂上」にしてゆっくり安全に散策した方々、一人一人のみなさんに「旭岳」砂礫を歩きながらはるか先まで見える山並みの風景を存分に味わいました。

ロープウェイ姿見駅出発

8歳の小学生は、ゆっくりと安全に不安定な砂礫の急な下りを頑張って、往復6時間以上歩きました。姿見駅に下山したときに見せてくれた笑顔は本当に素敵でした。

みなさんが怪我なく笑顔で下山してくれる、当然、あたりまえのことに素直に喜んで安心することが登山の楽しさや喜びの基本なのだと改めて確認する機会となりました。

コロナウィルスを気にせず、マスクなしでロープウェイにいっぱい乗車して、観光客や登山者で賑わっていた姿見駅の風景はまだありませんが、縦走装備をした登山者や登山を楽しむ親子連れを多く見られて、登山を楽しむ人々は多くなっていることを感ずることもできました。

これからも「登山」を通じて、山の楽しさと安全の大切さを伝えていく役割を推進していきたいと感ずることができました。

参加していただいた方に感謝いたします。きありがとうございました。

(ジュニア委員長 高見 直広)

【参加者】 一般参加者 大人10名(内「道岳連個人会員」5名)
小学生3名 幼児2名
北海道山岳連盟 役員スタッフ 8名 合計23名

登攀研修会

6/26

赤岩東千ムニー

新型コロナも落ち着きを見せてきましたが、なお感染防止に配慮しました。

赤岩は相変わらずの混雑状態で、駐車場確保のため我々チームは午前6時30分に集合。東千ムニーに移動しトップロープを降ろし研修会の準備に取りかかる。研修は参加者8名を3組にわけ初級者は用具の説明、ロープの結び、確保技術、経験組は自己脱出技術と3.4級ルートにトップロープ、リードに挑む。落下したトップ者を想定して救出すべき自己脱出の手順に四苦八苦しながらも仮固定、切り替え、バックアップと連続技が続き時間をかけ丁寧に行う。最後にけんすい下降時のバックアップと基本動作について学び研修会を終える。

スタッフ 石井 昭彦 本宮 敬士 加藤 陽子 明田 通世



沢・登攀研修会 9/11 富岸沢・カムイヌプリ

9月11日（日）登別市川上町にある「富岸沢（とんけしさわ）」で令和4年度の沢・登攀研修を3年ぶりに実施しました。

参加者は14人（参加者10人、スタッフ4人）で新型コロナウイルス感染予防をしながら富岸沢を登り、カムイヌプリ頂上へ行き、下山は登山道を使って登山口へ戻りました。



本来であれば1泊2日で初日を沢登りの装備、地図読みとコンパスの使い方、沢登りや登攀に必要なロープワークを行うところですが、新型コロナウイルス感染予防のため宿泊をやめ、1日間の研修会としました。

カムイヌプリ3合目登山口から林道歩きを約50分、入渓してからカムイヌプリ稜線まで約3時間、下山約1時間の行程でした。昼食は少し遅めの午後1時、下山終了は15時でした。

懸垂下降や自己確保に必要なロープワークをもっとしたかったのですが、やはり1日間の研修ですべてをするのは無理があります。

参加の皆さん、スタッフの皆さん、お疲れ様でした。事故なく、怪我なく終了できたことに感謝します。ご協力ありがとうございました。（指導委員会 澤田）



スタッフ相馬（コーチ1）報告

カムイヌプリ幌別ダムコース3合目～富岸沢入渓～カムイヌプリ頂上～（幌別ダムコース下山）～3合目着
参加者10名（山岳会4名 個人会員6名 スタッフ4名）

カムイヌプリは、一般的には幌別ダムコースと室蘭岳からの縦走コースがあり、今回は幌別ダム3合目登山口からトラシナイ林道を約50分室蘭側に移動し、富岸沢に入渓しカムイヌプリの頂上を目指すコースで実施しました。このコースは程よい滝とナメが連続する変化に富んだコースかと思っています。

今回の参加者の中に道岳連個人会員が6名おり、中には沢登りが初めての人もいて、林道から入渓地点の沢に降りるときの懸垂下降など、初めて使う下降器に戸惑いがあったが、堂々と懸垂をしていました。途中のヘツリや数箇所滝をトップロープで直登し、沢クライムの楽しさと怖さを体

験、沢の分岐ではコンパスの使い方などルートを見つける実地トレーニングなどをして、無事カムイヌプリの頂上に到着しました。今回の研修は本来であれば2日間の予定でしたが、新型コロナの影響で現地での実地研修のみとなり、少し残念ではありますが、参加者の皆さまには満足してもらえたかと考えております。また、遠方より参加の皆さま、ありがとうございました。スタッフ一同、またの参加をお待ちしております。

受講者感想

T・Kさん

この度、初めての道岳連の沢・登攀研修に参加させていただきました。

スキーの技術を学びたくて入会していたのですが、沢研修もあるとのこととで早速申込みしました。多少の沢道具を持ってはいたものの経験もほとんどなかったので、色々と教えていただきました。

当日は9月といえども、暑くて気持ちの良い沢歩き、滝のロープを出してもらい恐怖感なく楽しかったです。下山中は世間話もしながら和気あいあいと歩きました。

ロープワークなどを色々覚えられたらさらに楽しくなるだろうと、また、挑戦したい沢研修会でした。ご指導してくれた皆さまに感謝いたします。

春季遭難対策研修会 4/23-24 十勝岳・大雪青少年交流の家

令和4年4月23日～24日かけ、残雪期の安全登山研修会を開催しました。参加者は12名、講師を含めて16名の参加で残雪期の登山未経験者が多く、有意義な研修となりました。コロナの感染予防については徹底した三密対策などがとられ、参加者は安心して研修を行うことができました。講師は仲井信夫、為野宜巳、潮田 満、齋藤邦明でした。

初日には、残雪期の安全登山に続き、下山できない時のビバークについて残雪を利用した雪洞の作り方について講義を行い、野外において実践の予定でしたが、あいにくの雨降りとなり、室内においてアイゼンやピッケルの種類、持ち方制動方法について研修しました。夕食後は捻挫の応急手当として簡単なテーピングや三角巾を使った処置など、全員素足になってもらいそれぞれ実習を行いました。

2日目は、朝から晴れ渡り8時20分閉鎖中の温泉ゲートから望岳台に向いました。望岳台のシェルターは閉鎖中でしたが、駐車場はきれいに除雪されており、天気も良くまさに道岳連の独占状態でした。二班に分かれて駐車場から左の谷に沿って500m地点まで登り、短い急斜面を使って研修を実施し、初めはピッケルを持ってのアイゼンワーク、急斜面を登り下り次には斜めに登り下り、続いてトラバースの歩き方などピッケルの持ち方や足のつま先の方向、アイゼンを足に引っかけない歩き方について実習しました。



雪洞掘隊



アイゼンワーク

最も急な斜面 30m ほどを使いリュックを背負ったまま滑落し制動をかける訓練です。一度そのまま滑るとかなりのスピード！下は平らで安全ですが、滑り出しはチョット恐怖を感じる。

ピッケルの種類や体勢により制動距離に個人差はありましたが、転んでも素早く制動をかけられる技術は会得したと思います。最後に二人一組となり残雪を利用したビバーク用雪洞作りに挑戦、1時間以内に断熱マットと入口を塞ぐシートを利用、思い思いの雪洞を作り修了しました。

(遭難対策委員長 齋藤 邦明)

夏山講習会 Part1 6/4 恵山

日付 令和4年6月4日(土)

コース ホテル恵風登山道(十三曲がりコース)往復

参加者 10名(山岳会6名 個人会員4名)

スタッフ 2名

※登山口で偶然一緒になった地元の個人会員さんと、ガイドの奥様を含め総勢14名での楽しい講習会となりました。

恵山はビギナーからベテランまで楽しめる変化に富んだ9つのコースがありますが、今回はサラサドウダンの林(通称森林浴コース)を通り抜け、活火山特有の荒々しい火山れきと奇岩の点在する権現堂コースを通り山頂を目指しました。

今年はツツジの開花が早かったと聞いていたため「花は終わっているのでは？」と心配でしたが、サラサドウダンの大木は見事な花を見せてくれました。また、山肌一面に咲くエゾイソツツジの群生も圧巻でした。



サラサドウダンの大木

今回の講習会には、恵山の風土・歴史についての第一人者である函館市恵山支所の松本主査が同行してくださり各ポイントで詳しい説明を聞くことができました。エゾシカによる食害の状況や恵山噴火の歴史、また松本潤が主演

「永遠のニッパ」のドラマの撮影が恵山で行われた時の逸話等々・・・また山頂では十八番の民謡「道南口説」を熱唱して頂き、古の蝦夷地の風情も感ずる事ができました。

また今回は地元の山に詳しい北海道山岳ガイドの丸岡さんが案内を引き受けてくださり、随所で適切なアドバイスがあり第一回目の夏山講習会に相応しい山行になりました。



恵山山頂での集合写真

サラサドウダンは花だけでなく紅葉はさらに素晴らしいとのこと。10月中旬から11月初旬が見頃と聞き、今回は歩くことができなかった海向山周遊コースを含め再挑戦できたらと思っています。

遠方より参加して頂いた会員の皆さん、ご尽力下さった講師の皆様、そして素晴らしい自然と好天に心から感謝いたします。

(報告 田中 清子)

第77回国民体育大会スポーツクライミング競技北海道ブロック予選会 兼 令和4年度北海道体育大会スポーツクライミング競技会 8/6 美唄市体育センター 8/7 グラビティリサーチ札幌

令和4年8月6日～7日、第77回国民体育大会スポーツクライミング競技北海道ブロック予選会が開催された。8月6日は美唄市体育センターでリード競技、8月7日はグラビティリサーチ札幌でボルダリング競技が行われた。

コロナ禍で一昨年は中止、昨年はボルダリングのみ行われた国体予選だが、今年は無観客開催で、個人ロープの使用や健康チェックアプリMetell1による参加者全員の健康状態の把握など感染対策を講じながら、3年ぶりに2種目とも実施して北海道代表選手を選抜することができた。ただし、人数を制限するために従来北海道体育大会を兼ねるものとして、スポーツクライミングの裾野を広げるために設けていたビギナーやキッズといったカテゴリーは廃して本国体の年齢層に限定し、さらに、参加者は全員2種目とも必ず出場するという、こちらも国体規則どおりに行った今大会は、参加者が28名と3年前と比較すると3分の1の人数にとどまった。

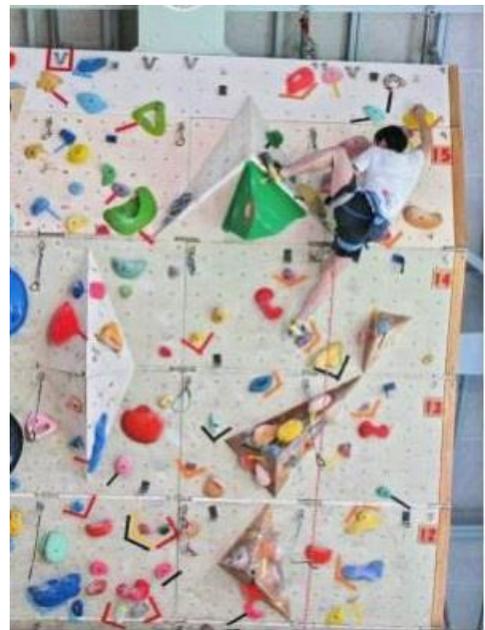
しかし、少数精鋭になった分、全体的にハイレベルな戦いとなったといえるだろう。競技も滞りなく行われ、競技会で感染が広がった事例が多く報告された時期に行われた大会であったが、2週間経った今、Metell1による感染者の報告はなく、胸をなでおろしているところである。

成年男子は、2021ボルダリングユース日本選手権大会で、ジュニア1位の成績を収めた坂本大河選手がボルダリングもリードもともに1位で総合1位。順当な結果だといえよう。総合2位は昨年、少年男子の部で三重国体代表選手に選ばれながら、新型コロナ蔓延のため直前の国体中止で涙をのんだ藤原稜平選手。総合3位の小林大騎選手の気迫に満ちた登りも非常に印象深いものであった。

成年女子はエントリーが2人しかなく、初めから国体代表選手は決まったものようであったが、1位の上原子選手の粘り強い登りは、しばらく競技から遠ざかっていたにも係わらず、少年女子の部で活躍していたころの強さを思い起こさせた。上原子瞳、北谷未紗のペアは2016年、少年女子の代表として出場した岩手国体以来である。長年競技に携わっている者としては、こういったことが非常に嬉しいのである。

少年男子は、昨年度も少年男子の代表として選ばれながら、三重国体が中止になって残念な思いをした齋藤鈴太選手と、国体初出場の中学3年生、工藤賢悟選手が1位で並び、代表に選ばれた。齋藤選手はボルダリング1位、リード3位、一方、工藤選手はリード1位、ボルダリング3位で、相乗平均を取ると共に1位になる。総合3位の荒川翔哉選手はボルダリング、リード共に2位、相加平均で比較すると3者が並ぶ。競技ルールで荒川選手は3位となったが、まさに三つ巴の戦いであった。果たして誰が本当に強いのか、今後も互いにライバルとして切磋琢磨してほしい。

少年女子も上位は接戦であったが、リード、ボルダリングともに1位の上原子音羽選手と、両種目2位だった吉田ゆな選手が、他の選手より少しだけ頭抜けている印象を受けた。リード競技では美唄の壁に付属する構造物が突起物として扱われる「はりぼて」なのか、それとも壁自体の形状と



して扱われるべきなのか、その解釈によって順位が変わってくるという難しい判定であった。3位に入った小鍛冶菜花選手は初出場の中学3年生。今後の成長が楽しみである。

◎第77回国民体育大会スポーツクライミング競技北海道代表監督・選手

成年男子	監督	高野 祐輔	HOMIE redbrich warehouse
	選手1	坂本 大河	北海道山岳連盟
	選手2	藤原 稜平	北海道教育大学 札幌校
	補欠	小林 大騎	北海道山岳連盟
成年女子	監督	石井 昭彦	旭川山岳会
	選手1	北谷 未紗	株式会社 秀岳荘
	選手2	上原子 瞳	グラビティリサーチ札幌
少年男子	監督	國谷 斗馬	グラビティリサーチ札幌
	選手1	齋藤 矜太	北海道函館西高等学校
	選手2	工藤 賢吾	札幌市立幌東中学校
	補欠	荒川 翔哉	札幌市立北都中学校
少年女子	監督	吉田 亜紀子	北海道新聞 宮本販売所
	選手1	吉田 ゆな	北海道小樽桜陽高等学校
	選手2	上原子 音羽	札幌大谷高等学校
	補欠	小鍛冶 菜花	北星学園女子中学校

※選手番号は成績順位ではなく、年長者を選手1（リーダー）としている。

◎第77回国民体育大会（いちご一会とちぎ国体）日程・会場

総合開会式：令和4年10月1日 カンセキスタジアムとちぎ（栃木県宇都宮市）

競技：令和4年10月2日～4日 壬生町総合運動公園（栃木県下都賀郡壬生町）

※総合開会式では、坂本大河選手が北海道選手団の旗手を務めます。

応援よろしく申し上げます。

文責 北海道山岳連盟競技委員長 山納 秀俊

今後の諸行事(予定)

北海道山岳連盟創立 70 周年記念行事・第 2 回理事会

期 日 令和 4 年 10 月 23 日(日)

会 場 ホテルライフオーブ札幌

安全登山講習会

期 日 令和 4 年 11 月 5(土)-6 日(日)

会 場 ネイパル足寄

第 21 回スポーツクライミング北海道選手権大会兼第 13 回全国高等学校選抜クライミング選手権大会北海道予選会兼第 62 回札幌市民体育大会クライミングコンペ

期 日 令和 4 年 11 月 6 日

会 場 未定

エベレスト街道～カラパタールトレッキング

期 日 令和 4 年 11 月 9 日(水)-30 日(水)

会 場 ネパール

冬期遭難対策研修会

期 日 令和 4 年 12 月 10 日(土)-11(日)

会 場 国立大雪青少年交流の家

山岳スキー初・中級研修会

期 日 令和 4 年 12 月 17 日(土)～18 日(日)

会 場 ほろたちスキー場

道岳連だより

北海道山岳連盟広報 No.9 5 令和 4 年 9 月 2 5 日発行

発 行 北海道山岳連盟

事務所 札幌市厚別区厚別北 1 条 4 丁目 1-4-206

発行責任者 石井 昭彦

編集担当(総務) 内 藤 美佐雄